

## ■今月の特選句

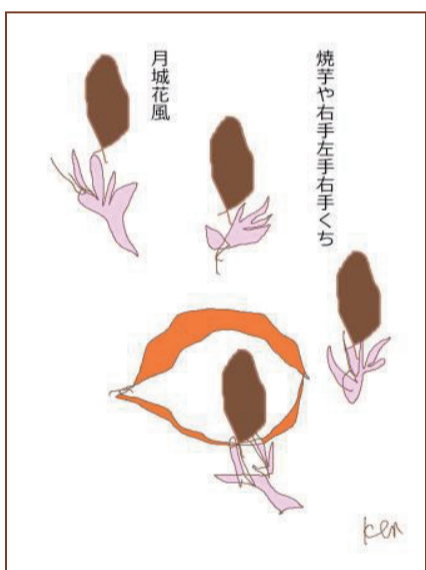
2024年3月



## 伊予柑を置いて私の予約席

八塚一青

伊予柑は、厚めの皮を剥くと爽やかな香りが部屋中に広がる。甘味と酸味の濃い果汁がたっぷり、どっしりと重みがある。文鎮にもよし。



## 焼芋や右手左手右手くち

月城花風

熱々の焼き芋を手にしての風景が進行形で活写されて可笑しい。「持ち替えた」などと動詞を使わずして名詞だけで動きを表現して愉快である。



## 雁首を揃へ討たれし落椿

西野周次

この句には作者の残念な気持ちが出ている。まだ十分に美しい椿が討たれたのだと見た。いっせいに落ちた椿を「雁首を揃へ」として怒りも表現。

## ■今月の特選句

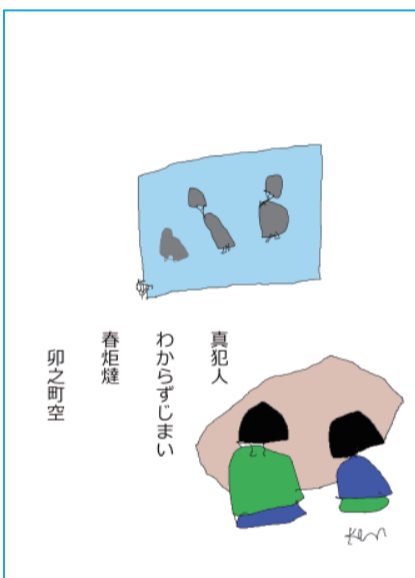
2024年3月



## シャッターもこの私も冬さびて

山本 賜

かつては賑った商店街も今やシャッター街。人通りの少ない街は何とも言えない寂しさがある。シャッターに自身を重ねてしみじみと人生を思う。



## 真犯人わからずじまい春炬燵

卯之町空

テレビドラマを見ていたが、うとうとしている間に話は終わっていた。ぼんやりした頭で考えてはみるが、結局、誰が真犯人だったのか謎のまま。



## みつけたかくれんぼうの藪椿

吉川正紀子

花が小さめで葉に隠れている藪椿を、かくれんぼしているのだとした場面設定が楽しい。「みつけた」という子どもの言い方も可愛らしい。

## ■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

目のみ黒なり濁世見し白魚は ・・・をどり食ひする人は気付かず	峰崎成規
初夢を落とさぬやうに抜け出しぬ ・・・小用済ませてまた潜りこむ	棕本望生
ファスナーの言うこと聞かぬ春ジーンズ ・・・日頃の躰がなつてないから	久我正明
節分の光の中にある光 ・・・眩いばかりに光る一句よ	日根野聖子
見て見ぬ振りのできる金魚は偉い ・・・無視されたけど俳句で褒める	鈴木和枝
節分や鬼の避難所満杯に ・・・鬼に人権ならぬ鬼権	花岡直樹
脇役の根深が主演伊勢うどん ・・・名脇役は主演を食ふや	岡本やすし
きっかけは二人っ切りの日向ぼこ ・・・温められたらその気になるさ	白井道義
絵かるたを覚え幼なの下克上 ・・・爺はほんまにちよろいものよと	柳 紅生
啓蟄を待てぬこの虫あの虫も ・・・句を詠む人もせつかちさんか	相原共良
手袋のろくぶて遊び昔々 ・・・ひつかけられし苦き思ひ出	瀬川至安
煮凝の敵はレンジのチンだった ・・・チンと鳴るたび震えとまらず	加藤潤子
薄氷の下で金魚のひれ動く ・・・人間ならば寒さに喚く	長井知則

## ■今月の滑稽句

\* 今月の特選句・秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

二ヶ月の眠れる木々を揺り起こし

天空の郷の干し藪「ひがしやま」

鶯の陽気な声に目覚めけり

破れかぶれ当たって砕けた四月馬鹿

大風呂敷広げてハッチャケ年忘れ

初糶(せり)のマグロー億超平和

火野正平危険があぶない葱畑

卵酒ひとはそれほど強くない

歯固めや八〇二〇夢の夢

プーチンを憎めど無言なるペチカ

節分の夜や鬼嫁無口なる

息白し廁見つけて猛ダッシュ

寒くはないかい水槽の魚たち

新成人迎える大人も幼な顔

木枯しが骨身にしみてなわのれん

伊勢海老の取り合いに負け蛸を食む

黴餅を捨てろ捨てぬと小正月

夜更かしの寝惚け眼に初日の出

節分や隣家の鬼役我が亭主

人間が勝手に命名いぬふぐり

突然や孫の手ぬつと春障子

節分会赤鬼の来てツーショット

バレンタインついでにと買ふ夫の分

大試験婆は寡黙を心得て

駐車場は枯葉のタップダンス場

冬の夜の夢を脱出まぶた開け

指先の破れ手袋スマホ用

針山はハットの形針供養

揉み蓬そつと載せけり膝小僧

相原共良

相原共良

青木輝子

青木輝子

青木輝子

赤瀬川至安

赤瀬川至安

荒井 類

荒井 類

荒井 類

井口夏子

井口夏子

井口夏子

池田亮二

池田亮二

伊藤浩睦

伊藤浩睦

伊藤浩睦

稲葉純子

稲葉純子

稲葉純子

井野ひろみ

井野ひろみ

井野ひろみ

上山美穂

上山美穂

上山美穂

卯之町空

卯之町空

細枝をぶらんこにして鴟一羽	梅野光子
赤椿つばきの句碑を囲みたる	梅野光子
冬の月川面にゆがむ思ひして	梅野光子
自白にも心に秘する斑雪	遠藤真太郎
気球界のフェスティバルかな山笑う	遠藤真太郎
辻褄が合わぬ国境黄砂かな	遠藤真太郎
母の優しさバター醤油の鏡餅	太田和子
お向かいの寄鍋の湯気窓にかな	太田和子
冬の陽のにはほひくんくんバスタオル	太田和子
大木に小枝をふやし春がくる	大林和代
またたく間に家の建ちたる余寒かな	大林和代
買いもせず撒かずじまいの年の豆	大林和代
進路決め見上ぐ厳寒の北極星	小笠原満喜恵
寒鰯に箸の止まらずもう一杯	小笠原満喜恵
蠟梅の香につつまれし古き家	小笠原満喜恵
アウェイ戦望むところよ石菫の花	岡本やすし
俳諧のちからは無限初句会	岡本やすし
旅人や春を探して一句詠む	沖枇杷夫
秋田鍋秘伝は菓喰にあり	沖枇杷夫
冬の炊き出し我にもあらむ慈悲心	沖枇杷夫
飲兵衛に待ったをかけるコロナ風邪	加藤潤子
水漬の元をたどれば飲みし酒	加藤潤子
下灘の今が見ごろの水仙花	門屋 定
年明けて俳誌届けば二月号	門屋 定
寒椿女性も花も化粧する	門屋 定
幼児また昼寝の時間思索せり	北熊紀生
卒業証「法学士」とは僕のこと？	北熊紀生
年金日バレンタインの翌日は	木藤隆雄
食べきるや二回に分けて福の豆	木藤隆雄
商法の見え隠れして恵方巻	木藤隆雄
松の内赤ら顔したえびす顔	木村 浩
松の内暦めくらず屠蘇続け	木村 浩

木の芽ものの芽山岳鉄道の眼

葉牡丹は夜な夜な躍るバレリーナ

東風吹くや殿様寿司は足で踏む

本物の土を耕す田打ちかな

ポケットを叩いて四温日和かな

本利き猪口や新搾機の寒造

報恩講頭上をめぐる募金筈

梅の樹の苔の早緑草庵の早春

掃きよせる線香の香の落椿

白椿月命日の祈りとも

いち早くつくしのにがさ春が来る

日溜りを丸めて産まれ寒卵

鳩型サブレ十字に割れて二月尽

冬晴に置けば石鎚輝けり

鏡開の終はるや否や恵方巻

食べきれぬほどの予約の恵方巻

狐の嫁入り海山道神社の節分祭

寒稽古禪きりりと振る竹刀

妻の待つ鯛焼一番我二番

焼芋屋「来なきや行っちゃうよ」の拡声器

吾が影の八頭身や日脚伸ぶ

湯豆腐や男やもめの腹八分

初詣龍の如きの長い列

震度七半島かける虎落笛

童謡の流れる町や春の雪

トボトボ歩けばトボトボ人間になるぞ

烏追い払う鬼を見たかのように

新年や人生日々が日曜日

正月や暦の様に行かぬもの

止らないくさめ昨今の永田町

久我正明

久我正明

工藤泰子

工藤泰子

工藤泰子

くるまや松五郎

くるまや松五郎

くるまや松五郎

黒田恵美子

黒田恵美子

黒田恵美子

桑田愛子

桑田愛子

桑田愛子

佐野萬里子

佐野萬里子

佐野萬里子

壽命秀次

壽命秀次

壽命秀次

白井道義

白井道義

鈴木和枝

鈴木和枝

鈴木和枝

鈴木和枝

鈴木和枝

高須賀溪山

高須賀溪山

高須賀溪山

笑い皺一本ふえて初鏡	高田敏男
御降と聞いて子どもは服を見る	高田敏男
悪童の今日は泣いてる二日灸	高田敏男
演奏会開かれている冬の山	田中 勇
腰かがめ話かけたり冬すみれ	田中 勇
降る雪や童話の世界をひろげゆく	田中 勇
雲水のまた寝坊せり百千鳥	田中やすあき
春寒しなんと小さき時計台	田中やすあき
駱駝から落ちる名騎手春の月	田中やすあき
あかぎれはちよつとビターな出来事と	谷本 宴
頭無き人形世田谷ボロ市	谷本 宴
草食男子の見習ふべきや猫の恋	谷本 宴
冬紅葉弟の背な押す兄の手は	千守英徳
冬温き伊予路を立ちて箱根路へ	千守英徳
川のごと愛媛マラソンの一万人	千守英徳
初富士の座するソーラーパネルかな	月城花風
びんずる様のごとし鞆の手も湿る手も	月城花風
水漬を垂らす少年還暦に	土屋泰山
瀬祭や寅さんのごと啖呵売	土屋泰山
寒泳や回れ右するZ世代	土屋泰山
この日より良き年であれ節分会	坪田節子
元旦の地殻変動神も泣く	坪田節子
受験の子四人もかかえドキドキよ	坪田節子
晴れ女雨男みて春隣	長井多可志
三寒の現場四温のポリティシャン	長井多可志
登記簿に甲句と乙句日脚伸ぶ	長井多可志
そぞろ歩きや寒明の土手ならば	長井知則
思い出の巡り巡って冴返る	長井知則
十歳で一つと数え年の豆	永易しのぶ
マネキンの服はパステル春浅し	永易しのぶ
紅梅は丸し愛らし餡甘し	永易しのぶ

## 荒波と鏝迫り合ひの冬鷗

思ひきりモンローウォーク野に遊ぶ  
 テレビの方に向いて頬張る恵方巻  
 木枯に負けてたまるかビール飲む  
 冬枯やダム底の橋現るる  
 一升瓶に挿す千両や外厠  
 ちりめん皺なら負けないぞ葉牡丹よ  
 花筏無銭旅行に保障なし  
 冬瓜の尻餅つけども助けなし  
 子に説教さるるも嬉し木瓜の花  
 うすらひは水の角質層ならむ  
 人生は果てなき散歩いぬめぐり  
 桜雨気分半分酔い半分  
 老体のやおら目覚めて山笑ふ  
 流水やクリオネの旅気まま旅  
 庭に来るいつもの猫や太郎月  
 大阪は粉もんの街春を待つ  
 初泣や心がフリーズしちゃってさ  
 血圧のようやく下がる七日かな  
 骨密度どんどん落ちて骨正月  
 鬼やらい鬼棲む妻が鬼を打つ  
 東風吹いて絵馬結願に嘶きぬ  
 穴出づる蟻に無休の覚悟あり  
 何故爺はそんなに多いの？年の豆  
 春の陽や無言で老いを語る友  
 春検診中くらいなりおらが腹  
 尻餅をつくほどもなし若菜籠  
 買初のメモの書出しアレの飴  
 ウィンクをして待つて居る達磨市  
 大寒やにぎやかとなる訃報欄  
 ふてくされ葉を落としけり大冬木

## 西野周次

西野周次  
 花岡直樹  
 花岡直樹  
 浜田イツミ  
 浜田イツミ  
 浜田イツミ  
 久松久子  
 久松久子  
 久松久子  
 日根野聖子  
 日根野聖子  
 細川岩男  
 細川岩男  
 細川岩男  
 ほりもとちか  
 ほりもとちか  
 ほりもとちか  
 南とんぼ  
 南とんぼ  
 南とんぼ  
 峰崎成規  
 峰崎成規  
 明神正道  
 明神正道  
 明神正道  
 椋本望生  
 椋本望生  
 村松道夫  
 村松道夫  
 村松道夫



風の兄弟春四番は末つ子か

ふきのとう風のささやきまつている

薔薇の芽やここから未来図はじまるや

落第の報告倍率をつけ加へ

思ひやる潤目に鰯の哀しみを

鬼の豆闇に仮想の敵を撃つ

蛤がお椀の中で澄まし顔

重力に介錯される椿かな

雪卸天上天下シャツをぬぎ

贅肉の炭火焼きなり置炬燵

不覚にも財布に風邪をひかせけり

インバウンドの二礼二拍手冬帽子

スクワット五回で止める寒夜かな

あちこちの名物集まる三が日

フリースの静電気光る寒夜かな

数多ある目の慣用句春眠し

風の中春の扉の見え隠れ

喉仏の骨を拾うて今朝の冬

喧嘩しても鬼にはなれず豆拾う

もう少しもう少しで春の野に

踏み出した一步が重いお正月

悴む手ハッハッハッの息温し

冬ざれの墓地に造花の増えにけり

ショッピングジェンダーフリーの冬の服

身を守る保護色をして蔭の臺

擬人化で描く落椿の嘆き

梅の香にちよとほぐれたる仏頂面

諍へる老いの二人に春闌ける

バレンタインの外巻きパーマ初めての

能登の地震日本中が喪に服す

男前の写メール届く成人日

女正月ああやれやれとシュトーレン

森岡香代子

森岡香代子

森岡香代子

八木 健

八木 健

八木 健

八塚一青

八塚一青

柳 紅生

柳 紅生

柳村光寛

柳村光寛

柳村光寛

山内 更

山内 更

山内 更

山下正純

山下正純

山下正純

山本 賜

山本 賜

横山洋子

横山洋子

横山洋子

吉川正紀子

吉川正紀子

渡部美香

渡部美香

渡部美香

和田のり子

和田のり子

和田のり子